

『彦坂尚嘉のエクリチュール/現代美術家の思考』出版記念

彦坂尚嘉個展 /Naoyoshi Hikosaka

2008年7月4日(金)–8月1日(金) 12:00~19:00 日、月休

タマダプロジェクトコーポレーション (TAMADA PROJECTS CORPORATION)

都営大江戸線・東京メトロ有楽町線月島駅 7番出口右手奥へ 直進徒歩2分

『彦坂尚嘉のエクリチュール』出版記念パーティ:2008年8月1日(金) 18:00~20:00



彦坂尚嘉

「フロアイベント No.1」 1970年

撮影:刀根康尚

○フロアイベントNo.1の展示

1970年12月(日付け不明)彦坂自宅(世田谷区三宿2-32-20)自室8畳間の畳と縁側に彦坂自身が全裸でラテックスをまいた最初フロアイベント。

美術家の小柳幹夫が手伝い、現代音楽家の刀根康尚(現ニューヨーク在)が記録写真を撮影する。以降断続的に1975年まで続けられていく初期フロアイベントの第一回目にあたります。

このフロアイベントで撮影された白黒ネガおよそ400枚弱のなかから、22枚を選出し写真作品としたものが展示されます。

○フロアイベントNo.3の展示

『彦坂尚嘉3つのイベント』と題された展覧会のうちのひとつとして展開。

3つのイベントとは、1972年2月22日～27日に展開されたイベントで

- 1、床をみるイベント(フロアイベント)
- 2、物を運ぶイベント(デリバリーイベント)
- 3、海を見るイベント(アップライトシー)

であり、フロアイベントとしては3回目、複合型イベントの最初にあたる。

デリバリー・イベントとは、畳とその床に支えられている家具・道具一式を運搬して、京都に西上。4トン半のアルミトラックで500キロを走破したイベントです。それらをギャラリー16の空間に持ち込み、画廊の壁をぶち破り、畳を敷いて家具一式を展開し、ラテックスをまいた。この一週間かけてラテックスが乾いていく様を展覧会会期中展開したフロアイベントは、日本赤軍の浅間山荘事件と時期がかさなっていた。最終日に浅間山荘突入と重なり、センセーショナルなイベントとなり日本の戦後の歴史と重なった形で人々の記憶に残る出来事になりました。

このフロアイベントの様子をおさめた22枚の写真を作品としたものを展示します。

『彦坂尚嘉のエキリチュール/現代美術家の思考』

出版記念パーティのご案内

さて、この度、1970年代初頭に美術家として出発し、美術作品の発表のみならずパフォーマンスや文筆活動を精力的に展開し続ける彦坂尚嘉さんが、先日、三和書籍より『彦坂尚嘉のエキリチュール』を発刊しました。この本は、具体を最初にとりあげた「閉じられた円環の彼方は-具体の軌跡から何を-」から、直近のプロジェクト「皇居美術館構想」まで、幅広い執筆が収録された二段組 600 ページの必読の大著です。

つきましては、下記の通り、彦坂さんを囲み、出版を祝いなごやかなひとときを楽しむ機会をもつことにいたしました。ご多用とは存じますが、ぜひご出席いただきたく御案内申し上げます。

発起人（アイウエオ順）

青木正弘（元豊田美術館学芸員）

五十嵐太郎（建築評論家、建築史家）

北川フラム（越後妻有トリエンナーレ・ディレクター）

清水誠一（美術家）

杉山旭（ギャラリー手）

玉田俊雄（タマダプロジェクトコーポレーション）

中原佑介（美術評論家）

原武史（日本政治思想史）

福田肇（フランス・レンヌ第一大学哲学科博士課程在籍）

- 記 -

『彦坂尚嘉のエキリチュール』出版記念パーティ

日時：2008年8月1日（金） 18時から20時

会費：10,000円（本をすでに御購入の方は本代をお返しします）

場所：タマダプロジェクトコーポレーション

誠に勝手ではございますが、準備の都合上、御出欠を7月20日までに、事務局までメールまたはファックスでお返事いただきますようお願い申し上げます。

坂上組 担当：坂上

FAX :03-3787-2307

shinobu@flamenco.plala.or.jp